



【発行所】
 独立行政法人国立病院機構 岩手病院
 岩手県一関市山目字泥田山下48
 Tel : 0191-25-2221
 Fax : 0191-25-2157
<https://iwate.hosp.go.jp/>
 発行責任者 櫻井 誠

あの日のことを忘れない 岩手病院「医療安全強化月間」の取り組み

医療安全管理係長 鈴木 信子

1999年9月に発生した人工呼吸器に関する事故を風化することなく語りつないでいく目的で、事故が発生した9月を「医療安全強化月間」と定め活動しています。

事故が発生すると、当該病棟だけではなく関係するすべての人たちを巻き込みます。事故から20年が経過し、当時から在職している職員も減っていく中で、後世に伝承していくことが重要と考えます。そこで、今年取り組みとして、院内カンファレンスにおいて千葉副看護部長より「リスク感性の醸成を目指して」と題して、事故の概要や当時の体験から学んだことなどについて話がありました。また「人工呼吸器の安全管理」について、佐々木主任臨床工

学士より他施設の事例や当院での事例から学ぶこと、人工呼吸器をチェックする際のポイントなどについての話がありました。当日はほとんどの職場から聴講者があり、聴講できなかった職員に対しては、各職場で伝達してもらい、あの時の事故の概要を知り、医療安全の重要性を再認識する機会となりました。

また、事故を未然に防ぐためには「ちょっとした気づき」が重要になってきます。そこで、2つ目の取り組みとして「インシデントレベル0または1を全職員が1件以上報告できる」ことを目標として取り組みました。その結果、レベル1報告が今年度の報告の中で2番目に多い結果となり、ちょっとしたことに気づき共有し、お互いが注意喚起することが大切であることを再確認した強化月間となりました。



院内カンファレンス リスク感性の醸成を目指して

副看護部長 千葉 洋子

1999年は、横浜市立大学付属病院で心臓と肺の手術の患者間違い、都立広尾病院で消毒薬の血管内誤注入、京大付属病院での人工呼吸器加湿器にエタノール誤注入と大きな医療事故が続いた年で医療安全元年と言われています。その年に当院では、人工呼吸器事故がありました。

その当時を知っている職員は少なくなりましたが、風化させないために昨年二人の看護職員から看護部の研修で体験談を語っていただきました。体験談を

聞いた看護職員からとても学びになったという意見が多く、事故から20年の今年、体験談を語った二人の資料を基に全職員に向けて事故の概要と体験から得た教訓を伝えました。

過去の教訓を糧に、当院でも医療安全は強化されてきました。医療安全は、職員一人ひとりのリスク感性が大切であり、職場風土として形成されます。当院の歩みを伝承し、学習する組織を構築していく必要性を再認識しました。

作業療法士等実習技能研修会に参加して

作業療法主任
久連山 智子

作業療法士
沢田 泉紀

9月19日、20日に仙台医療センターで開催された「作業療法士等実習技能研修」に、作業療法士2名で参加しました。



本年度は昨年度から継続して「神経難病・筋ジストロフィー及び重症心身障害児(者)のコミュニケーション支援」をテーマに、概論や疾患別各論についての講義がありました。さらに、講義の他に機器を体験しながら講師の方に質問ができる機会がありました。専門機器だけでなくスマートフォンなどの一般普及機器でコミュニケーション支援に活用できる機器も体験することができ、普段の支援の中で感じていた疑問などを解決することができました。またコミュニケーション支援の実例を数多く提示いただき、非常にわかりやすく有意義な研修でした。

今回の研修で得たことを活かし、様々な視点もちつつ患者さんのコミュニケーションを支援していきたいと思っています。

今回の研修では、人事管理や給与、診療報酬、会計制度などの日々の業務の中で必要になる基礎的な知識だけでなく、具体的な仕事の進め方や事務職員に必要なスキルなどについて実例を元に学びました。病院における事務部門の役割について再認識することができ、非常に有意義な時間となりました。

令和元年度事務職員人材育成研修 (Tact2) に参加して

算定・病歴係 中村 絵里

9月19日から20日にかけて、仙台医療センターで行われた「令和元年度事務職員人材育成研修」に参加してきました。この研修は採用2年目の事務職員が対象で、病院職員としての基礎知識を習得し、業務を円滑にすることおよびキャリア形成に必要な基礎力の養成を図ることを目的としています。



今回の学びを忘れることなく、今後の業務に生かしていきたいと思っています。

今回の学びを活かし、自傷行為がある患者さんと関わる際は、その人が何を伝えようとしているか、なぜ自傷行為を行っているかを考えながら接し、看護を行っていきたいです。

日本重症心身障害者学術集會に参加して

あすなる5病棟看護師 千葉 啓太

9月20日、21日に岡山コンベンションセンターで第45回日本重症心身障害者学術集會が開催され、「重症心身障害児(者)の自傷行為に関する要因の調査」と題し、発表してきました。



今回、患者さん1人の自傷行為について長期的に調査し、自傷行為は自ら身体を傷つけると一言で表

現できる行為ではなく、その背景には患者さんのさまざまな意志表示が含まれていることを知る事ができました。他病院からも自傷行為について取り上げた発表があり、自傷行為は環境の中で不足した刺激を自ら調整し得ているという事が分かりました。

今回、患者さん1人の自傷行為について長期的に調査し、自傷行為は自ら身体を傷つけると一言で表

特定行為研修説明会に参加して

看護部長 赤間 紀子

9月25日、厚生労働省東北厚生局主催の「看護師の特定行為研修説明会」に参加しました。主な内容としては、研修制度の概要、指定研修機関として研修生を育成している施設の現状、特定行為研修修了者から実際の活動についての説明がありました。



この研修制度は2015年10月に施行され、2025年に向けて在宅医療などのさらなる推進を図るために、医師または歯科医師の判断を待たずに手順書

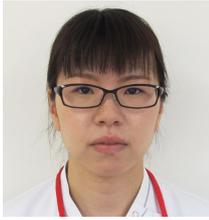
により一定の診療の補助を行う看護師を計画的に養成するために制度化されたものです。厚生労働省は、2025年に向けて約10万人以上の養成を目指していますが、2019年3月現在で1685名にとどまり、研修指定機関は134施設と少ない状況であるとの話がありました。

当院では、今年度から病院と在宅をつなぐ医療・看護を提供する目的で、訪問看護をスタートしています。入院している患者さんだけでなく、地域で暮らす住民の方が住み慣れた地域で安心して生活できる看護を提供するために、計画的に特定行為研修の受講者を育成する必要性を再認識しました。

青年共同宿泊研修に参加して

あすなる5病棟看護師 小野寺 香恵

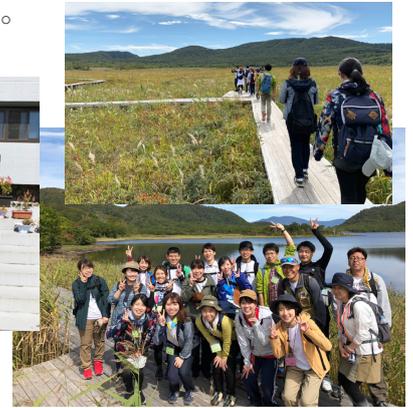
9月24日から27日までの4日間、青年共同宿泊研修に参加しました。この研修は、北海道東北ブロック内の国立病院機構に勤務する中堅職員を対象とし、機構の組織および業務についての基本的知識と認識を深め、職務の遂行に必要な対人交渉能力の付与などを目的としており、管内の国立病院機構職員計16名が参加しました。



1日目は仙台メディカルトレーニングセンターで機構組織において求められている役割についてと病院における接遇、サービスについての講義を、2日目には国立磐梯青少年交流の家に移動し、クレーム対応、人間関係を良くするための自己理解と他者理解の講義を、それぞれ受けました。3日目は晴天に恵まれ、雄国沼湿原に登山してきました。そして

4日目は今までの講義を受けて中堅職員としてのあり方をグループワークしました。

今回の研修では、講義で学んだ対人交渉能力を活かして、他病院の多職種の職員と意見交換や交流をしたことで視野が広がったと思います。今回の学びを活かし、中堅職員として少しでも病院に貢献していきたいと思っています。



高校生職場体験開催

教育担当看護師長 菅原 美花

10月16・17日の2日間、岩手県立大東高等学校2年生5名が職場体験を行いました。この体験研修は、望ましい職業観・労働観の育成、地域理解、自らの進路実現に向けて自覚を高めることが目的のことです。将来、看護師や放射線技師、理学療法士など医療職を目指しているため、自分達で調べて岩手病院を体験研修の場所にしたということでした。

2日間にわたって、病棟、検査科、放射線科、薬剤科、理学療法室、栄養管理室の各職場の体験研修を行いました。研修生は熱心に話を聞いたり、きらきらとした表情で患者さんと触れ合っていました。若い学生の訪問に、患者さんもうれしそうでした。研修生からは、体験により更に医療に興味を持ち、進路の参考になった等の感想が聞かれました。将来

一緒に働ける日を楽しみにしたいと思います。



事実はどうなのか？本当にそうだとしたら、日本はもう日本ではなくなってしまう。自分だけがそう感じるのだろうか。年齢を重ねると、皆口々に、時が経つのが速いと言う。時間の感覚が歪んでしまったのかもしれない。何が子供の頃と違うのか。自問するならば、それは物事に新鮮さを感じる事が少なくなったことのように思う。

全てが新鮮ならそれが思い出として残る。新鮮さを感じない生活の連続では確かに何も残らないだろう。これから努力して感覚を研ぎ澄ましてみる？それにはかなり悲観的だ。でも思い出づくりならできるはず。過ぎし日々を振り返ることができるには、その時々を思い出をつくっておくこと。それは終活を成す一番の課題という気がする。

思い出づくり

副院長 櫻井 誠

やっと秋が来た。
長くて暑い夏だった。豪雨や台風など災害続きだった今年の夏。
やっと青く澄んだ空に爽やかな空気が訪れた。うれしい実りの秋。

子供の頃は春も秋も、夏も冬も、それぞれの季節があつて、そこに思い出がある。停年という年齢も過ぎ、高齢者といわれる領域に達したが、このごろは春や秋が昔と違って短く感じられる。冬と夏、夏と冬の間の過渡的な時期としてしか感じられなくなってしまう。地球上にそういうところがあることを知っている。Tシャツとスキューエアだけで一年を過ごしてしまう人たちがいることも。

エッセイ

診療体制 (令和元年11月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
脳神経内科	午前(再来)	豎山	工藤 ※物忘れ外来、頭痛など	千田(圭)	千田(光)	今野
	午前(新患)	千田(光) (第1、3) 今野 (第2、4)	阿部	豎山	小野	千田(圭) ほか
	午後	※HAL外来 今野 (第1、3、5週)				※リウマチ科 千葉(実) (最終金曜)
呼吸器内科		芦野	櫻井	芦野・森 (禁煙外来)	櫻井	芦野
内科		櫻井 予約者のみ		櫻井 予約者のみ	阿部	佐藤(良)
外科		平野 予約者のみ	平野 予約者のみ		平野	
小児科			田澤		仙台医療センターから (月2回 第2、4)	※重症心身障害 大沼
リハビリテーション科		佐藤(智) ※ボトックス外来、AGA外来など			宮	
歯科		佐藤(敦)	佐藤(敦)	佐藤(敦)	佐藤(敦)	
その他	※予約に関するお問い合わせは14:00～15:00にお寄せ下さい。 ※専門外来は、すべて予約制です。 ※予防接種は、火・木9:00～11:00に完全予約で行います。			※心療内科 伊藤 ※消化器内科 仙台医療センターから ※アレルギー科(第2週) 千葉(友)	※皮膚科 東北大学から	※循環器内科 羽根田 (第1、3週)

職場紹介 — 薬剤科 —

薬剤科は薬剤師4名、業務技術員1名で構成しています。主な業務内容は医薬品の調剤・供給・管理、入院患者さんのベッドサイドでの薬剤指導、医薬品情報の収集、院内スタッフへの周知といった、医薬品にかかわる全ての業務を行っています。また、院内で活動する各種医療チームへも積極的に参加し、それぞれのチームで薬剤師としての専門性を発揮しています。

適正で安全な医療を提供するために、薬剤師には的確な調剤を行うことが求められます。薬剤科スタッフ間での連携はもちろんのこと、他部

門との連携も大切に、今後も業務へ励んでいきたいと思えます。

薬剤科調剤主任 平川 桂輔



【編集後記】 だんだんと涼しくなり、大分肌寒く感じられます。日も短くなってきました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。皆さんはどの秋を堪能されていますか。今年はスポーツの秋、特にラグビーワールドカップの話題ですね。チーム一丸となって、タックルされても前に前にゴールを目指す。あれだけぶつかって大丈夫なのかと心配でしたが、日頃の体調管理や鍛錬により頑丈な身体が作られているんだろうなあ……。少しでも体を動かして体調管理をしましょう。(Y・I)